

令和7年度 京都市 地域リハビリテーション 推進研修

23の講座
10の実習

発行：令和7年5月／保健福祉局地域リハビリテーション推進センター相談課
京都市印刷物 第070697号



京都市
CITY OF KYOTO



SDGs未来都市
京都



(センターホームページ)

講座プログラム（会場＋オンライン）

ハイブリッドでの
研修です！

	日 程	時 間	テーマ 講師
1	7月14日(月)	9:30～11:30	教えて！発達障害の基礎知識 京都市発達障害者支援センター かがやき センター長 京都市児童福祉センター 児童精神科医師 村松 陽子
2	7月16日(水)	13:30～15:30	利用者の希望を叶える！～高齢者への適切な目標設定と運動習慣への取組～ 大阪公立大学 医学部リハビリテーション学科 助教 作業療法士 中村 めぐみ 氏
3	8月1日(金)	13:30～15:00	在宅生活を支える栄養管理 ～多職種で連携して支援する生活～ NPO法人 京都訪問栄養士ネット 医療法人社団都会 渡辺西賀茂診療所 管理栄養士 松木 さなえ 氏
4	8月15日(金)	14:00～17:00	統合失調症の理解と支援 ～社会と繋がり続けるために～ 四条烏丸駅前メンタルクリニック 院長 精神保健指定医 並河 東明 氏
5	8月19日(火)	13:30～15:00	多職種連携の在り方 ～ゴミ屋敷の事例から～ 京都市保健福祉局 福祉のまちづくり推進室 係長 本田 耕志 京都市山科区社会福祉協議会 田中 千夏 氏
6	8月28日(木)	14:00～15:30	認知症サポート医から学ぶ、地域での認知症の方や家族の支援の実際 塚本医院 院長 塚本 忠司 氏
7	9月3日(水)	15:00～17:00	嗜癖(しへき)と依存症の理解と支援 ～依存症とうまくつき合っていくために～ 安東医院 院長 精神科医 安東 毅 氏
8	9月17日(水)	13:30～15:30	難病の方の地域生活を支える ～疾病受容のための具体的支援とは～ 大阪大学大学院医学系研究科 地域ヘルスケアシステム科学研究室 教授 小西 かおる 氏
9	9月25日(木)	9:30～11:30	発達障害の子どもの感覚と運動の問題についての理解 ～具体的支援について～ 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 作業療法士 岩永 竜一郎 氏
10	9月29日(月)	13:30～15:30	愛着障害と発達障害の理解と愛着の問題を抱える子の支援 和歌山大学 教育学部 教授 米澤 好史 氏
11	10月9日(木)	14:00～17:00	精神疾患の薬物療法 ～薬との上手なつきあい方を支援するために～ 公益財団法人 豊郷病院 精神科医 波床 将材 氏
12	10月16日(木)	9:30～11:30	SSWの視点から考える発達障害の子を持つ家族の支援 ～学校における問題点とは～ 精神保健福祉士 社会福祉士 神戸市発達障害ピアカウンセラー 笹森 理絵 氏
13	10月17日(金)	13:30～16:30	ひきこもりの理解と支援 ～人と人との関係性の再構築に向けて～ 鳥取県立精神保健福祉センター 所長 精神科医 原田 豊 氏
14	10月22日(水)	13:30～15:00	高次脳機能障害のある方への自動車運転再開支援 一般社団法人 京都府作業療法士会 自動車運転支援委員会 作業療法士 奥野 隆司 氏 吉村 正仙 氏 吉田 武史 氏 宝池自動車教習所 教務課 高次脳機能障がい運転支援講習担当 柴田 真明 氏
15	10月31日(金)	14:00～16:00	子どもの高次脳機能障害について ～小児科の医師と語り合しましょう～ 神奈川リハビリテーション病院 小児科部長 吉橋 学 氏

	日 程	時 間	テーマ 講師
16	11月4日(火)	9:30～11:30	大人の発達障害の方の理解と支援 京都市発達障害者支援センター かがやき 主任 公認心理師 臨床発達心理士 上久保 美和子 氏
17	11月11日(火)	13:30～15:00	障害福祉サービスと介護保険サービス ～両制度の移行、併用や多職種連携～ 京都市東部障害者地域生活支援センター らくとう 副所長 中村 嘉男 氏
18	11月18日(火)	13:30～15:00	医療的ケア児の理解と支援の実際 ～現状とこれから～ 京都市医療的ケア児等地域支援コーディネート事業 「にこっと」コーディネーター 小西 奈央子 氏 岡山 知子 氏
19	11月19日(水)	13:30～15:00	医療的ケアにおける関係機関との連携や実際の支援 京都医療センター 地域連携室 医療ソーシャルワーカー 仲江 陽大 氏
20	11月20日(木)	13:30～15:30	自閉スペクトラム症のある子の心の理解とコミュニケーション支援について 岐阜大学 教育学部 教授 別府 哲 氏

※ 会場は、「COCO・てらす 4階 研修室1」で、定員は90名(会場40名、オンライン50名)です。
※ 2、3、6、8、18、19の講座は、定員は50名(会場20名、オンライン30名)です。

- ★印は「京都市こころの健康増進センター」との共催
- 印は「京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室」との共催
- ◆印は「京都市高次脳機能障害者支援センター」との共催
- ♥印は「京都市発達障害支援センターかがやき」との共催

講座プログラム（会場のみ）

会場のみの実施です！
（オンラインでは実施しません。）

	日 程	時 間	テーマ 講師
21	9月8日(月)	13:30～15:30	おむつを学ぼう！ ～基礎的な知識や装着方法について～ 一般社団法人 日本福祉医療ファッション協会 副代表 おむつ宅配便 代表 理学療法士 八木 大志 氏
22	10月27日(月)	10:00～12:00	疑問を解決！ ～高齢者のための摂食指導を学び、食支援の可能性を広げる～ はなす たべる くらす舎 代表 言語聴覚士 高田 耕平 氏
23	10月30日(木)	13:30～16:30	車椅子のシーティングの基本と応用について 社会福祉法人 京都福祉サービス協会 人材マネジメント室 人事部 担当部長 理学療法士 神内 昭次 氏

※ 会場は、「COCO・てらす 4階 研修室1」で、定員は20名です。

実習プログラム

ご希望の場所まで
出講もします！
定員6名。

講師は、当センターの理学療法士、作業療法士です。

	日 程	時 間	テーマ
1	7月3日(木)	9:30~11:30	現場で役立つ！ 介助法「移乗編」
2	7月22日(火)	9:30~11:30	現場で役立つ！ 介助法「ベッド上移動・起き上がり編」
3	7月24日(木)	9:30~11:00	現場に活かす！ 機能維持体操「座位でできる集団体操編」
4	7月29日(火)	9:30~11:30	現場に活かす！ 機能維持体操「臥位でできる個別運動編」
※ 5	7月31日(木)	9:30~12:00	現場に活かす！ 「介助用リフトの正しい使い方」
6	令和8年 1月14日(水)	9:30~11:30	現場で役立つ！ 介助法「移乗編」
7	令和8年 1月21日(水)	9:30~11:30	現場で役立つ！ 介助法「ベッド上移動・起き上がり編」
※ 8	令和8年 1月23日(金)	9:30~12:00	現場に活かす！ 「介助用リフトの正しい使い方」
9	令和8年 1月28日(水)	9:30~11:00	現場に活かす！ 機能維持体操「座位でできる集団体操編」
10	令和8年 1月30日(金)	9:30~11:30	現場に活かす！ 機能維持体操「臥位でできる個別運動編」

※ 会場は、「COCO・てらす 4階 研修室1」で、定員は6名です。

※ 5、8の実習の会場は「COCO・てらす 4階 ADL室」です。

※ 実習には、当センターで実施する上記「会場型」のほかに、ご準備いただいた会場に向く「出講型」があります。

※ 「出講型」の内容は、「会場型」と同じです。「実習の詳細」をご覧ください。

講座の詳細(会場とオンライン)

1. 教えて！発達障害の基礎知識

7月14日(月) 9:30～11:30

講師：村松 陽子

京都市発達障害者支援センター かがやき センター長
京都市児童福祉センター 児童精神科医師

本講座では、発達障害についての基本的な知識を整理し、正しく理解を深めます。発達障害のある方は、どのような場面で困難さを感じ、どのような場面で力を発揮することができるのでしょうか。発達障害のある方たちの行動面や心理面の問題に対してどのような対応をすればよいのか、特性に合わせた関わり方の工夫や日常の具体的な支援について事例を通してお話していただきます。

※ 9月25日、9月29日、10月16日、11月4日、11月20日の講座は、受講者の方々が発達障害の基礎知識を持っておられること前提とした内容になります。受講をお考えの方は、本講座を先に受講されることをお勧めします。

2. 利用者の希望を叶える！～高齢者への適切な目標設定と運動習慣への取組～

7月16日(水) 13:30～15:30

講師：中村 めぐみ 氏

大阪公立大学 医学部リハビリテーション学科 助教
作業療法士

一般的に、運動を継続しないと身体機能が衰えていくという認識は広がっており、体操やストレッチを導入する施設は増加しています。しかし、「運動をして利用者が叶えたい希望や目標はなにか」、「運動を習慣にするために取り組むべきことはなにか」等、具体的なニーズや目標に対して、どのような方法で運動し、どう習慣化するか等についてのアプローチが十分とは言えません。

本講座では、地域において介護予防や高齢ヘルスプロモーションの研究・実践をされている講師から、具体的な目標を設定するための評価や、その目標に向かうためのプログラムの立案、具体的な運動方法について、実技を交えてお話していただきます。

3. 在宅生活を支える栄養管理 ～多職種で連携して支援する生活～

8月1日(金) 13:30～15:00

講師：松木 さなえ 氏

NPO法人 京都訪問栄養士ネット
医療法人社団都会 渡辺西賀茂診療所 管理栄養士

栄養、食生活は、生命や身体機能の維持のための土台であり、必要なエネルギーや栄養が不足すると、フレイル状態に陥ったり、運動の効果が上がらないなど、生活や健康面に大きく影響を及ぼします。

本講座では、ケアマネジャーやホームヘルパーをはじめとする支援者に気をつけてほしい栄養管理について、栄養アセスメントや支援の実際、栄養の視点から必要となる多職種の連携等、事例を通してお話していただきます。

講座の詳細(会場とオンライン)

4. 統合失調症の理解と支援 ～社会と繋がり続けるために～

8月15日(金) 14:00～17:00

講師：並河 東明 氏

四条烏丸駅前メンタルクリニック 院長
精神保健指定医

統合失調症は、約100人に1人がかかる身近な疾患です。適切な治療やリハビリテーションの継続により、病気とつきあいながら就労されている方や、安定した生活を送っておられる方もたくさんおられます。一方で、再発しやすいため、症状が落ち着いていても治療を継続していくことが重要です。

本講座では、基本的な症状や経過、治療やリハビリテーション、日常生活場面での具体的な関わり方や支援の方法などについて、事例を交えてお話していただきます。

5. 多職種連携の在り方 ～ゴミ屋敷の事例から～

8月19日(火) 13:30～15:00

講師：本田 耕志

京都市保健福祉局 福祉のまちづくり推進室 係長

講師：田中 千夏 氏

京都市山科区社会福祉協議会

地域コミュニティや家族の形が変化する中で、高齢化・孤立化による複合的な生活課題を抱える人が増えています。これらの人たちを支援するためには、制度やサービスの理解だけではなく、行政や医療・介護・福祉サービス機関、地域の関係者間の連携が重要ですが、実際の支援の場においては、誰とどのように連携すればよいかわかることが多いのではないのでしょうか。

本講座では、多職種連携の在り方について、「ゴミ屋敷」の事例を通して解決に向けた地域での連携や支援の実践について、二人の講師からお話していただきます。

6. 認知症サポート医から学ぶ、地域での認知症の方や家族の支援の実践

8月28日(木) 14:00～15:30

講師：塚本 忠司 氏

塚本医院 院長

2050年には、認知症と軽度認知症（MCI）の患者数は、全国で約1200万人（65歳以上の高齢者の約28%）になると予測されています。認知症を正しく理解し、症状に合わせた適切な治療や支援を受けることで住み慣れた地域で自分らしく長く暮らし続けることが可能です。

本講座では、認知症当事者や家族に寄り添うかかりつけ医として地域医療に従事する講師から、認知症の中核症状や周辺症状等とともに、事例等も交えてお話していただき、支援の実践について学びます。

講座の詳細(会場とオンライン)

7. 嗜癖(しへき)と依存症の理解と支援 ～依存症とうまくつき合っていくために～

9月3日(水) 15:00～17:00

講師：安東 毅 氏
安東医院 院長 精神科医

依存症は、特定の何かに心を奪われ「やめたいのにやめられない」状態になることです。「根性がない」「意志が弱い」のではなく脳の病気です。人は生きていくうえでいろいろなことに依存しているため、依存症は誰しもがかかり得る病気と言えます。

本講座では、アルコール・ギャンブル・薬物依存症についての基本的な症状や経過、治療やリハビリテーション、日常生活場面での具体的な関わり方や支援の方法などについて、事例を交えてお話していただきます。

8. 難病の方の地域生活を支える ～疾病受容のための具体的支援とは～

9月17日(水) 13:30～15:30

講師：小西 かおる 氏
大阪大学大学院医学系研究科
地域ヘルスケアシステム科学研究室 教授

難病の方の治療と暮らしを支えるには、医療だけでなく、介護や福祉を含めた包括的な支援体制が求められ、多職種の連携は欠かせません。多様なニーズを持つ難病の方が住み慣れた地域で生活するにはどのような支援が必要なのでしょう。また、本人や家族の疾病受容の過程に支援者としてどのように寄り添うことができるのでしょうか。

本講座では、当事者の方の物語をもとに解決方法を見出していくナラティブアプローチや、物事の見方や考え方を前向きに変える手法であるリフレーミングなどを通して実践に即してお話していただきます。

9. 発達障害の子どもの感覚と運動の問題についての理解 ～具体的支援について～

9月25日(木) 9:30～11:30

講師：岩永 竜一郎 氏
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 作業療法士

ASD児やADHD児には社会性や行動の障害などに加え、感覚面や運動面の問題が見られることが多いといわれています。感覚や運動の問題は、発達障害のある子にとっては深刻な問題であり、学校生活や活動の中で困難を引き起こすこともあるため、改善に向けた支援が必要です。

本講座では、感覚と運動の問題の原因は何か、発達段階に応じた具体的な支援方法とはどのようなものか、DCDの特性や評価の方法も交えてお話していただきます。

※ 会場では、講師が遠隔地からZoomで行う講義を上映する予定です。

講座の詳細(会場とオンライン)

10. 愛着障害と発達障害の理解と愛着の問題を抱える子の支援

9月29日(月) 13:30～15:30

講師：米澤 好史 氏

和歌山大学教育学部 心理学教室 教授

学校心理士スーパーバイザー 臨床発達心理士スーパーバイザー

ガイダンスカウンセラースーパーバイザー 上級教育カウンセラー

「愛着障害を発達障害と誤解して、発達障害への支援をしても改善せず、徒労感だけが残ってしまう」「愛着の問題を愛情不足と誤解して、愛情を注ぐことでかえって行動の問題が増幅し、余計に疲弊してしまう」など現場でも愛着障害と発達障害を混同している支援者が多いのが現実です。

本講座では、愛着障害について長年、臨床と研究に携わってこられた講師から、愛着障害とは一体どういうものなのか、愛着障害のさまざまな誤解を丁寧に解き、支援方法について具体的な事例を交えてお話していただきます。

※ 会場では、講師が遠隔地からZoomで行う講義を上映する予定です。

11. 精神疾患の薬物療法 ～薬との上手なつきあい方を支援するために～

10月9日(木) 14:00～17:00

講師：波床 将材 氏

公益財団法人 豊郷病院 精神科医

精神障害のある方は、適切な薬物療法を継続することによって症状のコントロールが可能となる場合が多いことから、薬と上手につきあっていくことが、安定した生活を送る上で重要になります。

本講座では、薬の効果や副作用、服薬が難しくなる原因など、薬物療法の基本的な知識について、最近の情報も併せてお話していただきます。

12. SSWの視点から考える発達障害の子を持つ家族の支援 ～学校における問題点とは～

10月16日(木) 9:30～11:30

講師：笹森 理絵 氏

精神保健福祉士 社会福祉士

神戸市発達障害ピアカウンセラー

精神的にも傷つきやすい思春期は、日常のちょっとしたことが学校生活でのつまずきにつながります。また、保護者に対しても適切な支えがなければ子どもが抱える問題にどう接してよいのか分からず戸惑ってしまいます。

本講座では、当事者・保護者・支援者というさまざまな視点をお持ちの講師がSSW（スクールソーシャルワーカー）としての立場から、発達障害のある子どもを持つ保護者の悩みへの寄り添い方や必要な環境、支援方法など、学校で勤務されてきた経験を通して具体的にお話していただきます。

講座の詳細(会場とオンライン)

13. ひきこもりの理解と支援 ～人と人との関係性の再構築に向けて～

10月17日(金) 13:30～16:30

講師：原田 豊 氏

鳥取県立精神保健福祉センター 所長 精神科医

「ひきこもり」は、単一の疾患や障害の概念ではなく、その実態は多種多様で、長期化するケースも少なくありません。一方で、関係機関と連携し、ひきこもっている方やご家族それぞれの状態に応じて問題を整理し、適切に関わることで、回復過程をたどることも多いです。

本講座では、多様化しているひきこもりの理解と、支援のために必要な基礎知識や支援の実際について事例を通して学びます。

14. 高次脳機能障害のある方への自動車運転再開支援

10月22日(水) 13:30～15:00

講師：奥野 隆司 氏 (佛教大学)

吉村 正仙 氏 (シミズ病院)

吉田 武史 氏 (京都博愛会病院)

一般社団法人 京都府作業療法士会 自動車運転支援委員会

講師：柴田 真明 氏

宝ヶ池自動車教習所 教務課

高次脳機能障がい運転支援講習担当

脳血管疾患や頭部外傷等により脳にダメージを受けた方の中には、高次脳機能障害の後遺症が残る場合があります。自動車の運転を勧めにくいケースも多いと思います。

近年、退院後の生活の質を担保するために自動車の運転が必要なケースに対して、教習所や公安委員会等と連携した運転再開のための取組が行われるようになってきましたが、京都市内では限られた病院しか十分な評価ができない状況で、浸透してきたとは言えません。

本講座では、教習所とリハ職の立場から、危険因子の評価や、運転再開への取組の現状、支援者間の連携について、事例を交えてお話していただきます。

15. 子どもの高次脳機能障害について ～小児科の医師と語り合しましょう～

10月31日(金) 14:00～16:00

講師：吉橋 学 氏

神奈川リハビリテーション病院 小児科部長

小児の高次脳機能障害は、成人の高次脳機能障害の方と違い、復学後に学校や家庭生活での困りごとと直面化しやすく、発達段階やその年齢に沿った関わりや支援が必要とされています。

本講座では、長年にわたり診察、支援に携わられている小児科の医師から、小児の高次脳機能障害の特徴や、発達障害との共通点と相違点、学校生活や地域での生活のポイントについて、事例を通して分かりやすくお話していただきます。

講座の詳細(会場とオンライン)

16. 大人の発達障害の方の理解と支援

11月4日(火) 9:30～11:30

講師：上久保 美和子 氏

京都市発達障害者支援センターかがやき 主任
公認心理師 臨床発達心理士

大人になって発達障害と診断された方は、生活や就労などのいろいろな場面で特性上どんな困りがあるのでしょうか。自分自身を肯定し、特性や能力を活かして生活するためにはどんな環境や支援が必要でしょうか。

本講座では、くらしや働き方の工夫を考えるポイントについて、ASD、ADHD、LDなどの特性に合わせた支援事例を交えてお話していただきます。

17. 障害福祉サービスと介護保険サービス ～両制度の移行、併用や多職種連携～

11月11日(火) 13:30～15:00

講師：中村 嘉男 氏

京都市東部障害者地域生活支援センター らくとう
副所長

障害福祉サービスの利用者が、介護保険サービスに移行するとき、利用できるサービスの内容や量、サービス事業所、利用料金等が異なる等により混乱が生じやすく様々な対応が必要になってきます。

本講座では、相談支援専門員の講師から、障害制度から介護保険制度への移行や両制度の併用、移行時の制度間の隙間への対応、また、加齢による身体機能や生活能力の変化への対応等、障害のある方のライフステージに応じた支援が切れ目なく行われるために、留意すべき支援者の視点や課題、よりよい支援を行うための多職種連携等について事例を通してお話していただきます。

18. 医療的ケア児の理解と支援の実際 ～現状とこれから～

11月18日(火) 13:30～15:00

講師：小西 奈央子 氏

京都市医療的ケア児等地域支援コーディネート事業
「にこっと」コーディネーター 相談支援員

講師：岡山 知子 氏

京都市医療的ケア児等地域支援コーディネート事業
「にこっと」コーディネーター 看護師

医療的ケア児支援法の施行や障害福祉サービス等報酬改定により、医療的ケア児に対する支援は以前より手厚くなっているものの、保護者の負担軽減や支援者の確保、地域での支え手の掘り起こし、多職種連携などの取組はまだ十分とはいえません。

本講座では、令和5年度から始まった「京都市医療的ケア児等地域支援コーディネート事業」においてコーディネーターとして活動しておられる二人の講師から、実際の活動などについて紹介していただくとともに、現状と課題、関係機関との連携について、具体的な事例を通してお話していただきます。

講座の詳細(会場とオンライン)

19. 医療的ケアにおける関係機関との連携や実際の支援

11月19日(水) 13:30～15:00

講師：仲江 陽大 氏

京都医療センター 地域連携室 医療ソーシャルワーカー

医療的ケアを必要とする人に関わる支援者は本人・家族とどのように関係を築いていくのでしょうか？また、支援者間ではどのように連携を深めていくのでしょうか。

本講座では、日頃、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の医療的ケアが必要な方を対象に、医療ソーシャルワーカーとして支援をしておられる講師に、本人・家族との関わり方や支援方法、他の関係機関との連携の中で心がけることについて、事例を通してお話していただきます。

20. 自閉スペクトラム症のある子の心の理解とコミュニケーション支援について

11月20日(木) 13:30～15:30

講師：別府 哲 氏

岐阜大学 教育学部 教授

自閉スペクトラム症のある子は人の心がうまく理解できないために、人とのコミュニケーションや、やりとりがうまくできないといわれています。多くの支援者の方は自閉スペクトラム症児の心の理解ができずに悩んだ経験があるのではないのでしょうか。

本講座では、自閉スペクトラム症児の感情や認知、行動を「障害特性」として捉えるのではなく、何を考え、何を感じているのか「心の世界」に近づき理解するコミュニケーション支援の概要とポイントを、具体的な事例を通してお話していただきます。

講座の詳細(会場のみ)

21. おむつを学ぼう！ ～基礎的な知識や装着方法について～

9月8日(月) 13:30～15:30

講師：八木 大志 氏

一般社団法人 日本福祉医療ファッション協会 副代表
おむつ宅配便 代表 理学療法士

「おむつ」についての知識や技術はどのくらいお持ちでしょうか。

排泄動作は生きていくためには大切な動作の一つですが、加齢とともに支障が出やすい動作でもあります。そのため、おむつを使った支援は支援者が関わることの多い身体介護の一つです。しかし、デリケートな部分への支援のため、その方法について情報を共有することがしにくく、支援者が独自の着脱方法で行っていたり、不安を持ちながら現場に出ている支援者は多いのではないのでしょうか。

本講座では、理学療法士で、「おむつ」についての小売り・卸売り・研修会・情報発信をしておられる講師に、身体状態や状況に合ったおむつの選択や漏れないためのつけ方等、実技を交えてお話していただきます。

※ 会場での受講のみの設定です。

22. 疑問を解決！ ～高齢者のための摂食指導を学び、食支援の可能性を広げる～

10月27日(月) 10:00～12:00

講師：高田 耕平 氏

はなす たべる くらす舎 代表 言語聴覚士

楽しく長く生きていく上で「食べる」ということは、非常に優先順位の高い生活行為の一つで、「今日のご飯は美味しかったな」「明日の朝は何を食べようか」等、食事が楽しみになることは「食べる」ことを継続するうえで重要です。しかし、加齢により口腔機能や運動機能が低下してくると、「食べる」ことが億劫になり、「楽しみ」でなくなってしまうます。そういうときに支援者はどのように対応したらよいのか大いに迷うところではないのでしょうか。

本講座では、言語聴覚士と食支援研究家の講師から、摂食・嚥下機能の正しい知識や基本的な評価・訓練方法等に加えて、多種多様な食事の提供方法や食支援の可能性について、実技を交えながらお話していただきます。

※ 会場での受講のみの設定です。

23. 車椅子のシーティングの基本と応用について

10月30日(木) 13:30～16:30

講師：神内 昭次 氏

社会福祉法人 京都福祉サービス協会
人材マネジメント室 人事部 担当部長 理学療法士

移動手段の一つとしてよく使われる車椅子ですが、移乗したときは安定した姿勢がとれていても、時間や活動とともに体が傾いてきたり、お尻がずれてきて気がつくとき姿勢が大きく崩れていることも多いと思います。

本講座では、車椅子シーティングの経験が豊富な講師に、車椅子姿勢の崩れの原因などについてお話していただき、安定して座るために必要な視点や方法について実技を通して体験していただきます。

※ 会場での受講のみの設定です。

※ 動きやすい服装でお越しください。

実習の詳細

<会場型>

講師は、当センターの理学療法士・作業療法士です。

1. 現場で役立つ！ 介助法「移乗編」

- ・7月3日(木) 9:30～11:30
- ・令和8年1月14日(水) 9:30～11:30

立ち上がりや方向転換など、移乗に関連する動きのしくみを考えます。また、利用者の身体機能や体格に合わせたさまざまな種類の移乗方法などについて学びます。

2. 現場で役立つ！ 介助法「ベッド上移動・起き上がり編」

- ・7月22日(火) 9:30～11:30
- ・令和8年1月21日(水) 9:30～11:30

ベッド周囲の動作（臥位での上方移動や側方移動、寝返り、起き上がりなど）の動きのしくみを考えます。また、利用者の身体機能や体格に合わせたよりよい介助方法について学びます。

3. 現場に活かす！ 機能維持体操「座位でできる集団体操編」

- ・7月24日(木) 9:30～11:00
- ・令和8年1月28日(水) 9:30～11:00

主に高齢者を対象にした集団体操について、より効果的かつ安全に実施する方法について学びます。

4. 現場に活かす！ 機能維持体操「臥位でできる個別運動編」

- ・7月29日(火) 9:30～11:30
- ・令和8年1月30日(金) 9:30～11:30

障害のある方や高齢者が定期的に身体を動かすことの重要性和、日々の支援の中に取り入れることができる個別運動について学びます。

5. 現場に活かす！ 「介助用リフトの正しい使い方」

- ・7月31日(木) 9:30～12:00
- ・令和8年1月23日(金) 9:30～12:00

数種類のリフトやスリングシートの正しい使い方を、実技を通して学びます。
吊られる体験もできるので、利用者の気持ちも感じられます。 ※当センターADL室で実施

<出講型>

内容は、<会場型>1～5と同じです。 1～4は会場と以下の物品を準備してください。

※受付期間は、令和8年2月末までです。

実習1：ベッド1台、車椅子2台

（ベッドと車椅子がない場合は、椅子4～6脚（肘掛なし）で代用可能）

実習2：ベッド1台（ベッドがない場合は、床にマットで代用可能）

実習4：床に敷くマット（参加人数の半分の数：ペアになって実習を行います。）

実習1～4共通：椅子人数分（講義時に使用）

実習5：リフトが用意できない場合のみ当センターで実施可能。

※ 日程や会場の広さ、定員等については、お気軽にご相談ください。

令和7年度 京都市地域リハビリテーション推進研修実施要領

1 目的

本研修は、リハビリテーションに関連する知識及び介護技術等の向上を目的とした研修を行うことにより、本市における地域リハビリテーションの推進及び充実を図るとともに、福祉・介護サービス等の質の向上に資することを目的とします。

2 受講対象者

次のいずれかに該当している方で、原則当事者、家族は対象外です。

(1) 次に定める事業に従事する市内事業所の職員

ア 障害者総合支援法による障害福祉サービス等及び相談支援

イ 児童福祉法による障害児入所支援及び障害児通所支援

ウ 介護保険法による居宅サービス事業所、地域密着型サービス事業所、居宅介護支援事業所、介護予防サービス事業所、地域密着型介護予防サービス事業所、介護保険施設、介護予防・日常生活支援総合事業の第一号事業に係る指定事業所及び地域包括支援センター

(2) 市内の総合支援学校及び育成学級等に勤務している教職員

(3) 障害者の支援に関する業務に従事している本市職員

(4) 障害者の支援等を行っている市内団体等に所属する方

(5) 障害者雇用を進める企業に所属する方等

(6) その他、研修内容に応じて、市長が認める方

京都市地域リハ推進研修

検索



3 日程及び内容

プログラムを御参照ください。

(当センターのホームページでも御確認いただけます。)

(センターホームページ)

4 受講形態

講座：会場での受講、又は、オンラインでの受講（注：会場だけの講座があります。）

実習：会場型（当センターで実施）、又は、出講型（受講者側が準備した会場で実施）

※ 出講型「5リフトの実習」は、リフトが用意できない場合、当センターで実施可能

5 会場及び定員

プログラムを御参照ください。

6 受講料：無 料

(出講型の実習で、会場に関わる費用が発生する場合は、受講者側で御負担ください。)

7 申込方法

以下の各申込フォームからお申込みください。

＊ 申込受付後、メール等で申込受理の連絡を行います。申込後、数日経っても連絡がない場合は、必ずお問い合わせください。

＊ 1つの端末で複数名が講座をオンライン受講される場合にも、1名ずつ申込みが必要です。

講座（7月～9月開催分）申込フォーム 申込期間：令和7年6月2日～9月25日

: https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=9677

講座（10月～11月開催分）申込フォーム 申込期間：令和7年9月1日～11月18日

: https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=9678

実習（会場型）申込フォーム: https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=9680

実習（出講型）申込フォーム: https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=9679

講座 (7月～9月) 申込フォーム		講座 (10月～11月) 申込フォーム		実習（会場型） 申込フォーム		実習（出講型） 申込フォーム	
-------------------------	--	---------------------------	--	-------------------	--	-------------------	--

8 申込締切：各開催日の2開庁日前（ただし、先着順で定員に達し次第、締め切ります。） 出講型の実習は、希望される日の1か月前までに申し込んでください。

締切後も、受講枠に空きがある場合は申込みを受け付けますので、お問い合わせください。

9 留意事項

- (1) やむを得ず欠席される場合は、受講形態に限らず必ず事前に御連絡ください。
- (2) 会場で講座を受講される方のうち、聴覚障害により手話通訳等が必要な方は、各講座の2週間前までに御連絡ください。
- (3) 会場へは、公共交通機関を御利用ください。特別な理由があり、車での来場が必要な場合は、事前に御相談ください。
- (4) 各研修開始3時間前の時点で、京都市に「暴風警報」又は「特別警報」が発令されている場合は、会場開催、オンライン開催ともに中止します。各自で御確認ください。
- (5) 講座をオンラインで受講される場合は、インターネット接続が可能なパソコン等の端末、回線、及び、Zoom アプリケーションを御準備ください。（通信料は受講者負担）
 - * 開催2日前を目途に、Zoom 視聴用 ID、講義資料等を、申込時に記載いただいたアドレスに送信します。申込時に受信確認をさせていただきます。
 - * セキュリティリスクを防ぐため、フリー Wi-Fi での接続は避けてください。
 - * インターネットへの接続環境や技術的な障害により、研修中に接続が切れる可能性があります。
 - * 当日、個別の操作説明や接続トラブルへの対応はできませんので、御了承ください。
- (6) その他、受講に際しての注意事項

以下に該当する事項は、固くお断りいたします。

- ・ 講義の録画、録音、撮影 ・ 資料の二次利用 ・ 講義の詳細内容の SNS 等への投稿
- ・ Zoom の ID 及びパスワードの無断共有（オンライン受講の場合）

該当する行為が発見された場合は、御退場いただきます。また、講義内容の盗用が発覚次第、講師の著作権・肖像権侵害として厳重に対処します。

10 当センターへのアクセス、問合せ先

市バス	西大路松原、市立病院前	バス停から徒歩4分
阪急電鉄	西院駅から徒歩10分	
京福電鉄	西院駅から徒歩10分	
JR	丹波口駅から徒歩15分	



発行 ・ 問合せ先	〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1番地の20 COCO・てらす1階 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課 TEL 075-925-7800 FAX 075-925-5920 E-Mail rehabili-chiiki@city.kyoto.lg.jp （受付時間：土、日、祝日を除く午前8：30～午後5：00） 令和7年5月発行 京都市印刷物 第070697号
-----------------	---